旭区社協だより No.120 あさひ 共に支えられ生きていく
令和7年11月発行

いきいき宣言

地域共生社会を目指して 共に支えられ生きていく
横浜市旭区社会福祉協議会

特集 赤い羽根共同募金

毎年10月1日から全国一斉に行われる「赤い羽根共同募金」。旭区内では、募金の一部を「あさひふれあい助成金」として活用しています。今回は助成金を配分している団体のうち、2団体の活動をご紹介します。

じぶんの町を良くするしくみ。 赤い羽根共同募金

子育て世代の応援グループや、認知症の人を支える団体を取材しました

旭南部地区 子育て地域サロン MaMa♥Kids

親子が楽しく過ごせる場所になるように
～やさしい先生による遊びが楽しいよ!～

地域の親子と“一緒に遊びながら見守る”活動を続け、今年で20周年を迎えました。本宿東部自治会館を会場に、未就園児と保護者向けに季節のイベントなども開催しています。

あさひふれあい助成金の使いみちは、チラシの作成や季節のイベント時のプレゼントなどさまざま。親子が一緒に楽しみ、「また頑張ろう!」と思ってもらえるよう、紙芝居やリトミック、3B体操などやさしい先生方をお招きし、色々な遊びを一緒に楽しめるようになりました。

「皆さんの福祉の気持ちが、私たちの活動につながっています。もし何か困りごとがあったら、一人で悩まずに気軽に遊びに来てくださいね」と呼びかけています。

9月18日は3B体操を体験

ジュニアボランティアの子どもたちと街頭募金活動

共生社会の実現目指して 認知症キャラバン・メイト 旭区ひまわりの会

広範囲の活動の支えに 温かい言葉も励み

認知症に対する理解を深め、認知症になっても安心して暮らせる街づくりを目指して活動中。主な活動は認知症サポーター養成講座で、地域からの依頼に応じて各所に出向き、体験談を交えた分かりやすい活動を行っています。

あさひふれあい助成金は、講座で使用する資料の印刷費や、広範囲にわたる活動のための交通費などに充てられ、地域密着の活動を継続するために不可欠な支えとなっています。

「街頭募金の際の『ありがとう』や『頑張ってね』という応援の言葉が、活動の大きな励みになっています」と感謝を伝えています。共生社会の実現に向けて、旭区ひまわりの会は活動を続けています。

体験談を交えて話す会員

9月10日に認知症サポーター養成講座を開催

募金活動へのご理解とご協力をお願いします。

旭区では、**令和7年10月1日～令和8年3月31日**の6カ月間、募金活動を行っています。募金活動にあたっては、区内施設や各種団体のみなさまより、街頭での呼びかけや募金箱の設置、自治会町内会における広報物の配布など、さまざまな形でご協力をいただいています。

募金は任意であり、強制するものではありませんが、福祉活動の支援のため、ご理解とご協力をいただけますよう、お願いいたします。

募金の受付はこちら
※初回のみログイン不要

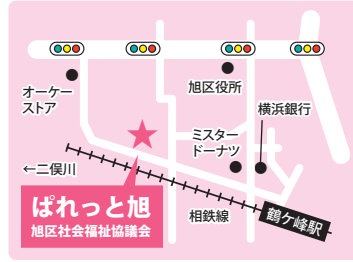
善意銀行 善意銀行にご協力いただいた方々 ありがとうございました

<順不同・敬称略>
令和7年7月～7年9月

金品寄付
たかはし書道教室、株式会社 清光社、志澤 希久子、伊志嶺 朝之、旭区社協ご利用者 匿名3件

物品寄付
医療法人社団 司命堂会 介護老人保健施設 希望の森、八ッ橋 政彦、神奈川県理容生活衛生同業組合旭支部

善意銀行とは、皆様からの善意の寄付金品をお預かりし、旭区内の福祉施設や当事者団体、地域福祉活動団体などへ配分し、皆様の善意を広げていく事業のことです。

発行／社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会
●この広報紙は、「赤い羽根」共同募金の配分金で発行しています

ホームページ　X(旧ツイッター)
〒241-0022
横浜市旭区鶴ケ峰1-6-35
TEL:045-392-1123
FAX:045-392-0222
https://www.palletasahi.jp/ 旭区社協